

「飼料イネに関する日韓国際セミナー」を開催

日本と韓国の両国は、米の消費減少を受けて水田における飼料生産利用、畜産における飼料の自給拡大という共通の課題を有しています。

昨年は、韓国において第1回のセミナーが実施され、当研究所及び作物研究所からは5名の研究員が参加しました。今回、第2回目の標記セミナーが10月25日に畜産草地研究所(那須)GGホールにおいて開催されました。

韓国からは畜産研究所4名、行政及び生産者それぞれ1名の計6名の参加があり、国内からは県や国の研究者をはじめ、民間、団体等からの参加があり、参加者は全部で約70名でした。

セミナーでは、清水副所長による歓迎の挨拶の後、5件の講演があり、韓国畜産研究所の林英哲氏による「韓国の畜産と粗飼料について」及び金鐘根氏による「韓国の飼料イネの栽培利用に関する研究状況について」では、韓国の畜産と飼料生産を巡る状況と飼料イネ研究の概要が紹介されました。

韓国の飼料イネに関する研究は始まったばかりですが、飼料イネの品種育成が着々と進められて

いることや、調製・給与等の利用研究も進められていること等が示され、興味深い内容でした。

日本からの講演は、全国農業協同組合連合会の千葉寿夫氏による「日本における飼料イネ普及事業と普及状況について」、畜産草地研究所の吉田宣夫氏による「日本における飼料イネ研究と技術開発状況について」、株式会社タカキタの奥村政信氏による「日本における飼料イネ収穫調製機械の開発状況について」で、活発な討論がなされました。特に、韓国側からは日本の飼料イネ栽培に対する補助金制度や、専用の収穫調製機に高い関心が示されました。

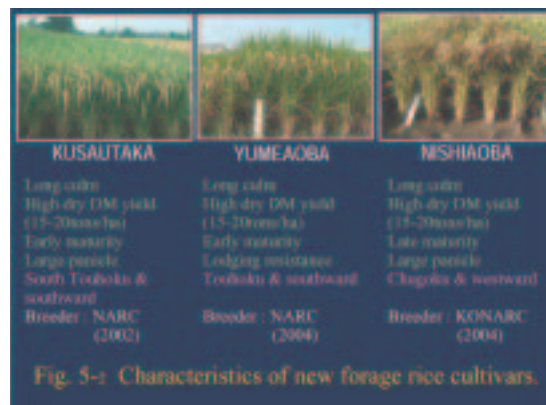
水田の有効活用はアジアモンスーン地帯で共通の課題であり、飼料イネの技術開発はますます重要となると思われます。中でも韓国と日本は環境も似ている点も多く、お互いの成果を活かし合うことの重要性を認識しました。

次回セミナーを韓国で実施に向けて、今後検討することになりました。

(家畜生産管理部 調製工学研究室長 重田一人)



セミナーの様子



セミナーで用いられたプレゼンテーション